



◆分かるためには、まず覚えること。



わが家の本棚にある『のだめカンタービレ』の背表紙です。これを見て、何か気付くことはありますか？

何もかもがインターネットにつながるようになった現代(そうした仕組みをIoTといいます)、“検索してその場で何でも調べればいい”と吹聴されるようになりました。そこから転じて、勉強においても“色んなことを覚えている必要がない”とか、“頑張ってる覚えることに意味がない”と、知識量を重視しない風潮が広がりつつあるように私(高崎)は感じています。しかし、これらは“検索してその場で何でも調べればいい”を自分に都合よく解釈したもので、“やらないことを正当化するもっともらしい理由”に過ぎないと私は考えています(「もっともらしい理由」とは何かという話はまた別の機会に書きます)。“検索してその場で何でも調べればいい”時代が意味するところは、知識が各所に格納されており、誰もがアクセス出来る環境が整備されてきたことによって、従来のように覚えているという事実そのもの=知識量があるということそのものに価値がある時代ではなくなり、ねらった知識にいかにか高い精度でアクセス出来るかどうか、そして、異なる知識同士をつなげて自分の見方を持てるかどうか——そうした一段階高い水準へ時代が進んだのだということです。ところで、上の写真の続きです。



これなら、何を  
読み取ってほしいか  
気付くでしょうか？

従来は知識へのアクセスそのものに制約があり、それゆえに、努め励み、こじ開けて制約を乗り越え、限られた人だけがアクセス出来る知識を持っていることそのものに価値がありました。例えば東常縁(室町時代)の「古今伝授」はこのケースにあたるでしょう。しかし現代は(実際には、分け入らねばアクセス出来ない知識はまだたくさんあるのですが、それはさて置き)知識へのアクセスそのものの制約は従来に比べて低減され、多くの事柄について多くの人が“検索してその場で調べる”ことが可能になっています。「古今伝授」を知らなかったとしても、いまこの場で日本史の用語集やインターネット検索でみなさんが調べられるように。従って、時代は“知識を蓄えている”から知識を活用する”に水準が上がったのです。

さて、冒頭の写真について。下のように全巻を写すともうお気づきですよ。



「背表紙のデザインがピアノの鍵盤になっている」が、今回読み取ってほしいことの答えでした。ピアノの鍵盤のイメージを知識として備えているかどうか——ここに、覚えている(知っている)人とそうでない人との間に、受け取る情報量の圧倒的な差・分かることの差が生じているのです。『のだめカンタービレ』の内容を知らなかったとしても、背表紙のデザインからピアノが関わっている話なんだろうか——と、読まずして推測が働くのです。もちろん内容を知っている人が見れば、作者の遊び心に頬が緩むことでしょう。

今回の例では「なんだ、そんなことか」という話に思うかも知れません。しかし、普段の読書において、ニュースなどの記事を読むにおいて、動画を観る・映画や音楽を鑑賞するにおいても、そしてテストや演習・入試の問題文を読むにおいても、同じものを示されたとしても、人によって読み取れる内容に差があるとなればどうでしょうか？当然ながら、試験会場では、その場その場で検索することが出来ません。授業に参加しながら、誰かと話をしながら、本を読みながら、映画や音楽、舞台芸能に触れながら、受け取る情報を逐一検索することは出来ません。仮に検索を逐一かけられたとしても、それは個々における細部の知識理解に留まり、全体像を立体的に把握することは出来ません。流れをつかみ、全体像を自分の頭の中に描き出すには、示された内容を受け止め、整理し、自分の中で再構成しなければならぬからです。示された内容は、自分の知識（知っていること）に結び付けて受け止めるしかありません。知らないことは受け止められません。だからこそ、受け止められる範囲を広げ、受け止める精度を高めるために、自分の知っている範囲のさらに外側へ手を伸ばし、その範囲を拡張していくことが大切なのです（学年通信「悉有」第24号2023年4/10発行）。残念ながら“検索してその場で何でも調べればよい”には、再構成の機能が備わっていません。知識量の差は、どれだけの内容を受け取れるか、問題文を読み取れるか——自分が手に入れる情報量の差、そして分かることの差として現れるのです。もちろん、知っていれば自動的に分かるというものではなく、知っていることを用いて“自分から能動的に分かりに行く”ことを要しますが。

加えて、見落とされがちなのが“知らないものはそもそも検索出来ない”という点です。先程の背表紙のデザインを画像検索すれば、ピアノの鍵盤が導かれるのではないかとともに考えられます。そこで左記の3枚目の写真をGoogleの画像検索にかけると、残念ながら『のだめカンタービレ新装版』ばかりがヒットしました。



↑ここまで限定して画像検索をすると、ようやくピアノの鍵盤の画像が候補に出ました。しかし、このように限定出来る人は、既に“知っている側の人”ですよね？鍵盤のイメージがない人は、この背表紙のデザインの意味を求めて画像検索することにさえ至らないでしょう。何が分からないのかを把握出来ない場合、それが分かるために何を検索すればいいのか、まずその地点にたどり着けないことが多いのです。

2/29(木)～4/7(日)、39日間の春休み。3/21(木)を含めて、あと18日残っています。3年の授業が始まると、新たにインプットせねばならない内容が示されます。3/21(木)からの18日間を、しっかりと質と量を備えて“必要なことを覚える”に時間を充てましょう。理解は一定量の“覚えている”の上に成り立つもの。覚えるだけで満足してはいけません、そもそも覚えてさえいなければ理解以前の問題です。生野ベーシックは、そのための最小限を示した目安です。ちなみに“共通テストはマーク式だから選択肢で選べさえすればよい”という感覚は誤りです。そうした曖昧な覚え方は、かえってダミーの選択肢に翻弄されるだけです。1・2年で私が授業を担当したクラスでは言ってきたことですが、例えば地歴公民科目においては「リード文や選択肢をみて、それが具体的に何を指しているのか——自分で歴史用語を書き出せる程度のアウトプット力が必要」と心得てください。

## ◆当面の予定

3/21(木)後期終業式

難関国公立10大学説明会

25(月)新クラス発表(下足前に掲示予定)

4/1(月)新クラス発表(下足前に掲示予定)

3(水)難関国公立10大学スタートアップ講習

4(木)難関国公立10大学スタートアップ講習

8(月)前期始業式・大掃除

9(火)スタディサポート

10(水)授業スタート

裏面へ続きます

3年生になってからだと、「いや、そんなことを言われても…」と受け止める余裕がないと思うので、まだ心の余裕が比較的保たれているであろう2年のうちに述べておこうと思います。大学受験に向けて“どこなら合格出来るかな？”という感覚は持たないでほしい。そういう感覚で3年生を過ごす人は、どんどん志望校を変更していきついでに（はっきり言うと“下げで”いきます）。模試の結果を見ては変更し、共通テストの出来具合を見ては、色の良い判定が出そうな大学・学部を延々と探して、今まで全く言っていなかったような出願先を持ち出してくる——それでその出願先に合格したとして、その後の大学生活にその人は満たされるのでしょうか？ここで自分が納得出来るまでやり切れなかった人が、その後の人生で“やり切る”ということが出来るのでしょうか？

生野高校は、「現役合格をめざそう」という進路指導をしていません（GLHS10校はどこでも基本路線は同じで、現役に固執していません）。もちろん、誰もがまずは現役合格をめざすし、現役合格に価値を見出す意見も一定数あります。経済的事情で浪人が難しい場合もあります。それでも、「現役で合格出来る場所」よりも、「浪人してでも“ここに行きたい！”という志望を追求してほしい」という点を、学校はこれまでも重視してきましたし、現在でも重視しています。重ねてになりますが、GLHS10校はどこでも基本路線は同じです。2023年3月卒業生で調べると、この10校で1学年あたりの浪人数は天王寺が最も多く、次いで多いのが北野でした。生野の浪人数は10校で真ん中あたりに位置しており、「もう1年頑張る！」と粘りを見せる生徒が比較的多いのが特徴です。2024年入試では、国公立大学の医学部医学科に2浪で合格した卒業生が複数います。

めざした目標に対し、本当に自分が納得いくまでやり切してほしい。これは決して、「一度口にした目標は絶対に変えてはならない」ということを言っているのではありません。

「これだけやったからこそ達成できた」

「これだけやっても届かんかったんなら、仕方ない。自分の限界をちゃんと知ることが出来た」

——結果の成否にかかわらず、そう言って次のステップに進めるよう、自分がその結果に納得出来るよう、やり切してほしいのです。逆に言うと、「周囲もそうしているから…」とか「こっちの方が有利っぽいから…」といった（実際には“有利っぽい”なんてありません）、自分が本当に納得出来るまでやり切っていないにもかかわらず、“自分の頑張りに対する納得”以外の理由で針路を切り替えてしまわないでほしいのです。

自分が出来得る限りのことをやって、それでも望んだ結果が得られなかった場合、ここまでの自分が否定された気持ちになって受け止めきれない——だから、“一生懸命になり過ぎないところで留めておく”や、“初志に達し得なかったことが正当化出来る余地を残しておく”という考え方は、年々広がってきているように感じます。当初は100を得ようと思っていたが、“頑張り”をつぎ込んでも得られないのかも知れないのなら、“いまの頑張り度合い”で80が得られる形に目標設定を変更する方がましだ。そして当初の目標である100を得られなかったのは、途中から路線を変更したからだ——と、こんなところでしょうか。

2年初めの学年通信「悉有」第24号（2023年4/10発行）に、「高望みはせず、いわゆる“安牌”を切りたい——消費性向はそれでいいのかも知れません。しかし、人の一生は消費物ではありません。自分という器に何を盛り込むかは、高望みしていいのです。仮に結果として望んだものが盛り込めなかったとしても、それを盛り込むことが出来た人と繋がりを持てたり、望むに値するものが存在することを知っている自分になれる——そのこと自体が、望んだ成果として自分の中に残るのです」として、「オリンピックで、メダリストだけに価値があるのではない」

と書きました。80 が得られる形の“頑張り”に変更すれば、自分が得るものは最大でも 80 に留まります。100 を得ようと努め続けていれば、仮に 100 を得るに届かなかったとしても、85 や 90 には届き得るのです。自分に対しての出し惜しみは無しでいきましょう。今の自分がイメージ出来る範囲の志望に将来の自分を合わせに行くのではなく、自分が望む将来像に今の自分を近づけていきましょう。人生、時には背伸びが必要です。あまりに無謀であるならば、担任の先生がちゃんと「無謀だ」と言ってくれます。そうでない限り、自分以外の誰がどう言おうと、せめて自分くらいは、自分の志望を支えてあげてほしい。ちなみに、自分の納得・自分の限界をちゃんと知るために、最後まで“無謀”を承知で貫いていった生野の生徒も過去に見てきましたし、毎年そのうちの一定数は（浪人も含めて）その“無謀”を実現しています。こうしたところに、生野生の底力を感じます（左記の医学部医学科合格者がその好例です）。

もちろん、まずはみなさんが“2025年4月にこの舞台に立っている”と目標設定し、それが実現されるよう学校は最大限のサポートをします。しかし、仮に目標に届かなかったとしても、浪人で頑張り好条件が 77 期世代には残されています（具体的には3年になってからの学年集会で説明します）。自身の環境が許すならば、“現役合格”という自分ではない誰かの価値観のために自分を矮小化させる必要はありません。

2年前、みなさんの合格者登校に際し、学年通信「悉有」の名付けについて「(仏性であるかどうかはさておき) 生野高校に 77 期生として入学した皆さんにも、全員が必ず何かしらの可能性(タネやモト)を内包させていると考えている」と書きました(入学準備号 2022年 3/24 発行)。あまり自覚をしていないかもしれませんが、決して小さくはない“野心”を持っていない限り、倍率 1.5 倍の高校入試はとてつもなく突破出来るものではないのですよ。